

第六回 參議院運輸委員會會議錄第十四號

昭和二十四年十二月三日(土曜日)午後
一時三十分開会

本日の会議に付した事件

○國際觀光ホテル整備法案（衆議院提出）

○道路運送法の一部を改正する法律案
(内閣提出・衆議院送付)

○調査報告書に関する件

委員会を開会いたします。先ず国際観光ホテル整備法案を議題といたします。速記を止めて。

午後二時十二分速記開始
○委員長(板谷謙助君) 速記を始め
て。暫く休憩いたします。

午後二時十三分付

午後四時五十二分開会

き委員会を開きます。

律案を議題に供しますが、この法案に付する質疑は前回二点、二大本盤を一

おるとみなしたわけであります。尙

簡単な御質疑がござれば、この機会に

その以前に本多国権大臣より選んで

○國務大臣(本多市郎君) 今回道路運
します。

送達の規定に関する事項を 第十
二条に行政事務の委任をすることになつた

のであります。が、その委任の時期並びに法律の改正をも願いする前後の関係におきまして、誠に委員会の御立場を考えますと、甚当を欠いていた点があつたと考えるのであります。この点は誠に遺憾に存する次第でござります。つきましては、どうか事情を御了承下さいまして、今後は是非御了承頂きたいと思いますが、今後は委員会の御意見を十分尊重し、こうしたことのないよう注意いたしたいと思いますので、何分御了承をお願いいたします。

○鈴木清一君 固らずも実は國務大臣の方から先にお話がありましたので、その点につきましての意見を持つておきましたが、それは一應伏せるといつしまして、ただ今後はというようなことを言われたようではありますけれども、実は運輸大臣と本多国務相との今までの答弁の中には、相當何といいますか運輸大臣に言わせれば閣議で決定したから仕方がない、それで本多さんから言わせれば、こういう見解からこのようないふ合に持つて行つたので、今まで決議を無視したという点についてはただ單なるお詫のよう聞えるのでありますけれども、閣内において少くとも委員会の意向もはつきり国会から表明されており、又運輸大臣もそれに対しても一つの見解を持つておられるということは相当重大な問題だと思う。そうした問題を閣僚のうちで審議する場合、ただ單に今大臣のいわれた程度のお詫といふような言葉で、今後氣を付けてますといふような程度で、私はこ

の問題を無理にも了解させようとすると、併しすでにこのことにつきましては皆様から十分言われておりますので、私といたしましては、つつきり確認して頂いたい、ということを申し上げて置きます。

○國務大臣(本多市郎君) よく了承いたしました。

○委員長(板谷順助君) 他に御質疑ありませんか。

○鈴木清一君 逐條審議につきましては皆様から大分質問されておりますので、私は質疑をこの程度で打ち切ります。

○委員長(板谷順助君) 他に御質疑ありませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり

○委員長(板谷順助君) それでは討論に入ることにいたします。先ず道路運送法の一部を改正する法律案につきまして、御意見のある方はお述べを願いたいと思います。

○鈴木清一君 私は先ずこの法案に対する反対の意見を表明します。理由を申上げますと、交通行政の一貫性ということは今まで度々叫ばれておつたことであり、今日の日本の状態におきましても、交通行政の一貫性という

する人事権と行政権といふような面におきまして、一貫性を欠くようになるとになつておる点につきまして、先ず反対の意を表するわけであります。従つてこれに携るところの職員の身分保障につきましても、実はこの法案のうらんで示されておる点におきましても、はつきり保障されておらないということは、地方に委譲されたがために必然的に地方の状況の下に行政整理というようなことも、今後尚予想されるのであります。こうした点につきまして反対の理由とするわけであります。従つて反対の理由は少いと雖も、この法案が通過し実施される場合においては懶政をく者の立場から見ます場合、それから国家の交通行政というようなものを見ます場合におきまして、多大の支障を来すと思いますので、反対を表明するわけであります。

な発達を期待することができないという観点におきまして、反対をいたすものでありまするが、而もその過程をおきまして、衆議院におきましてはすでにこの問題は、九月の十二日に院議を以ちまして、地方委護の反対の決議もやつておりますし、特に又参議院におきましては、これは委員会一致を以ちまして、反対の意思を表明し、同時に又政令の公布につきましても、国会の開会を待つてその問題も採り上くべきというような院議を以て政府に提出しておるのでありまするが、かような制度の国会よりの要請に拘わらず政府がこれを強行したことにつきまして、我々はこの問題につきまして、どうしても国会軽視の態度を追究する意味からいたしましても、この問題につきまして反対をせざるを得ないのであります。現段階におきましては、自動車行政の地方委譲ということは、これは地域的な均等性を阻害して行くものでありまして、特に交通行政が戦後異常な発達はしたとは申しましても、地域的におこれを見ますときにおきましては、未だ我々が同時に又国民一般が、この交通の利便的な使用におきまして拘泥した交通の恩恵に浴するというようなことができない現状でありまするからして、どこまでも私達はこの道路運送法の精神を守り抜いて、自動車行政を国家の見地から発達させて行くといふことにつきましての根本精神を失わぬように行くためにも、反対をせんくてはならないと思つております。同時に

にこの委譲されましたところの職員の身分問題であります。この身分問題が、我々が危惧しておるところの重要な一つであります。而も地方の状況によりましては、すでに地域的に起きましても、整理の嵐に見舞われるとしておるところのこの職員の状態に對しましても、我々はこれはどうしても国家の見地からして、人員の問題、定員の問題、又は今後の厚生施設その他の恩惠の問題も考えて行かなければならないところが、この委譲のためにこのことができないことにつきまして、我々は強く反対をしなくてはならないと思います。かような観点からいたしまして、この法案に対しましては反対を表明するものでございます。

〔異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(板谷順助君) 外に御意見ありますか? 御意見がありませんければ、討論は終局したものとみなして差支ありませんか?

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(板谷順助君) それではこれより、道路運送法の一部を改正する法律案を議題といたしまして、採決をいたします。衆議院送付の原案に対しても、賛成の諸君の挙手を願います。

〔挙手者多数〕

○委員長(板谷順助君) 多数であります。可決すべきものと決定いたしました。

尚本会議における委員長の口頭報告の内容につきましては、すべて前例に従つて行うことになつておりますが、御異議ございませんか?

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(板谷順助君) 御異議ないものと認めます。

尚参議院規則第七十二條により議院

○委員長(板谷順助君)	御署名洩れは	者 の 署 名 を 附 す る 事 に な つ て お り ま せ ん か 。	に提出する審査報告書には、多数意見
村上	義一	す の で 、 本 法 案 を 可 と せ ら れ た 方 は 順 次 御 署 名 を 願 い ま す。	す の で 、 本 法 案 を 可 と せ ら れ た 方 は 順 次 御 署 名 を 願 い ま す。
植竹	春彦		
入交	太藏		
飯田精太郎		多 数 意 見 者 署 名	
早川	慎一		
大隅	憲二		
加藤常太郎			

として置いたらどうかと、かように考へるのです。

それから、その理由といたしましては、地方税法の十四條には「地方団体は公益上その他の事由に因り、課税を不適当とするときは、課税をしないことができる」課税をしないことがでるきということ、第二項に、「地方団体は公益上その他の事由に因り、必要があるときは不均一の課税を為すことができる」という二点、二点に明記

ありますけれども、併し観光ホテルであるという事業の性質から考えまして、私はこれは当然運輸省がその主導省になるものであるという考え方を持つております。恐らく政府の意見といつたましても、そこに結局決定するものであろうと考えております。本法案が成立いたしましたならば、委員会の皆様の御意向も運輸省が適当であるとして御意見のようでござりますので、この御意見を十分尊重いたしまして、速かに決まり、といたします。

〔拳手者多数〕
○委員長(板谷順助君) 多数であります。
す。可決いたしました。
尙修正部分を除いた原案につきましては、
て採決をいたします。原案に賛成の諸
君の拳手を願います。

〔総貢拳手〕

○委員長(板谷順助君) 全会一致可決
いたしました。
どうか一つ賛成の諸君の御署名を願
います。

先ず国際観光ホテル整備法案を議題に供しまして、これに対するところの質疑は、大体前回において終了いたしたものとなしたのでありますたが、これより討論に入りたいと思いますが、別に御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(板谷順助君) 御異議ないと認めます。

この法案に対する御意見のもありの方は、一つ御発表願いたいと思います。

○丹羽五郎君 いろいろこの法案を審議いたしましたのですが、結局この第七條の点であります。これは成る程、この地方財政にも及ぼす影響のあることでありますから、これを全面的に削除いたしまして、新たに第七條に「登録ホテル業の用に供する建物について、は、地方税法(昭和二十三年法律第二百十号)第十四條第二項(公益等による不均一課税)の規定の適用があるもの

午後五時二十三分開会
○委員長(板谷順助君) これ
いて会議を開きます。

1

それから第十四條第二項及び第三項
中「家屋税」を「地方税」に改める。
これは家屋税をということは、地方税
に改めると、いふことに、これも修正を
して頂きたい、かように考えておりま
す。

○委員長(板谷順助君) 外に御意見あ
りませんか……委員長より、この法案
に対する主管大臣といふものが、いづれ
の大臣にあるかはつきりしておりま
せんので、この機会におきまして、本
多国務大臣並びに運輸大臣より、この
主管大臣といふものはどうするのか、
どの大臣にするのかと、いふことを、は
つきりお答えを願いたいと思いま
す。

○國務大臣(本多市郎君) 今直ちに主
管大臣は何大臣であるかということを
お答えいたしますことは、政府の方針
がまだ決定しておりませんので、私がか
ら断然を以て答えることができないので、

○國務大臣(大屋晋三君)　運輸大臣といたしまして、この親光ホテルの主管理は是非運輸省でなければならぬ、という考え方を持つておりますんで、開港等におきましても一つ速かに、往来客多少の異論がありますのを速かに統一して、運輸省の主管にいたすべく努力いたすつもりでおります。

○委員長(坂谷謙助君)　如何ですか外務省に御発言ありませんか。では討論が終局したものとみなしてよろしくござりますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(板谷謙助君) それからこの際諸國にお詣りいたしましたが、税制改革の交通事業並びに関連産業に及ぼす影響に関する調査、鐵光事業に関する調査及び日本国有鉄道法施行に関する調査、これを本院に報告することにつきまして、委員長に御一任を願いたいと思いますが、別に御異議ありますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(板谷謙助君) 御異議ないことを決定いたしました。

多数意見者の御署名を願います。

多数意見者署名

飯田精太郎	丹羽 五郎
村上 義一	早川 憲一
小野 哲	鈴木 清一
大隅 憲二	楠竹 春彦
加藤常太郎	内村 清次
入交 太藏	

○委員長(板谷謙助君) 御署名洩れはございませんか。

それでは本日はこれにて散会いたします。
午後五時三十一分散会

出席者は左の通り。

委員長 板谷 順助君
理事 小泉 秀吉君
飯田精太郎君
丹羽 五郎君

委員

内村 清次君
植竹 春彦君
大隅 慶二君
加藤常太郎君
入交 太藏君
小野 哲君
高田 寛君
早川 義一君
村上 慎一君
鈴木 清一君

衆議院議員

親方兼美振
特別委員樹立長

栗山長次郎君

國務大臣

運輸大臣

大屋 晋三君

政府委員

運輸事務官
(大臣官房
親光部長)

間島大治郎君

運輸事務官
(自動車局長)
牛島 長彌君

法制局側

法制局長 奥野 健一君

昭和二十四年十二月十五日印刷

昭和二十四年十二月十六日發行

參議院事務局

印刷者 印刷所